

ふじぎしんぶん

第165号

2015年
3月号

はるのかぜのふじぎ



はるいちばんがふいた

きょうは、そつえんしきです。
みいこちゃん、そつえんする
おにいさん、おねえさんに
ねんちゅうさんの だいひょうとし
て、りっぱに「あいさつが
できました。」

ところが、かえってきたら、
おかあさんが おおさわぎ。

「たいへん、こんなに かげが
つよくては、 せんたくものが
とばされてしまうわ。」

「ほんた、はるいちばんだね。
せっかく さきはじめて こぶ
しが、 ちつてしうよ。」
と、ひかるおにいちゃん。

「はるいちばん??」

「ことし、はじめてふく、みなみ
からの つよいかぜだよ。」

つぎのひは、きのうの あたた
かさが うそのよう、 ふゆの



さむさに ぎやくもどりで。

みいこちゃんは、があきようじゆ
に、きねんしゃしんを おとどけ
します。

「はかせ、きのうは、はるいちばん
でした。あんな つよい かげつて
どうして ふくのですか。」

「くうきが こく つまったところ
から、うすいところに むかって
ながれるのが かげです。 はるに
なると みなみから あたかいか
くうきが やつてきます。 でも

きたの さむいくうきも まだ が
んばっています。 すると すごく
こく つまった くうきや、すごく
うすいくうきの かたまりが でき

て、つよい かげが ふきます。」
「みいこは、おおきくなったから
とばされませんでした。」

「よかった よかった。 いよいよ
ねんちようさんですね。」

ねんちようさんですね。」

かんたん？ いがい？ ためしてみよう！

はるが ちがついてきたね。 かせがつよい？ おひさまは あたたかい？

おひさまも くうきも ふゆとは ずいぶん ちがって きました。

ひざしを あびれば ぬくぬくかな？

かせは あたたかいかな？

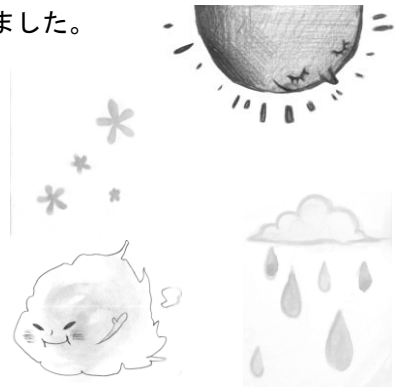
きゆうに さむいひが くるかな？

おはなの かおりが してきたかな？

そらのいろは どうですか？

くもの かたちは どうですか？

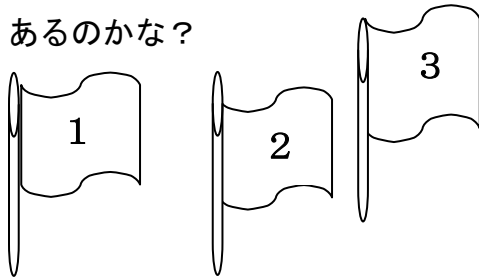
もうすぐ さくらが さきはじめますね。



クイズコーナー

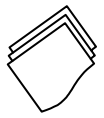
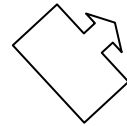
1

「はるいちばん」があるなら、
「はるにばん」も
あるのかな？



2

「はるいちばん」が
あるのなら
「なついちばん」
「あきいちばん」
「ふゆいちばん」もある？



つよいかぜで、
せんたくものがしんぱいなら・・・

いちばんこうぎょうの
きょうりよくせんたくばさみ

はさめーる



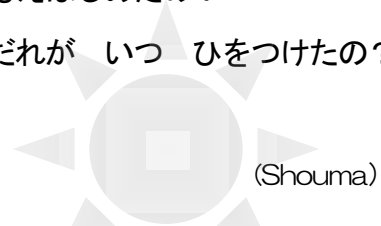
どんなかせにも、まけません。

みんなが みつけた ふしぎ

おひさまは どうやって

もえはじめたの？

だれが いつ ひをつけたの？



みんなも みつけた
ふしぎ おしえてね

風はどこから

宣伝になり恐縮ですが「空気は踊る」(太郎次郎エディタス社)と言う本を出しました。

第1章のタイトルが「風はどこから」。そこでは、空気という「あるのが当たり前」のものが作り出す風について、私たちの周りにあまりにも多様な姿であるものだから、ついあれこれと書き連ねてみました。

私たちは風に取り巻かれています。

自分が吐き出す息からして小さな風。エアコンから吹き出し、地下鉄で、ビルの出入りに、吹き出し吹き込み、さまざまに巻き起こる空気の流れ。そんな中、大規模な自然の大気の変動では、気象観測で測る風が生じます。

団扇などで空気を押ししたり、袋に溜めておいて押して吹き出させて起こる風以外に、空気が動き出す要因には温度差があります。

温度差や気圧の差があるということは、異なる状態の空気が背中合わせにあるということです。違いを均そうと空気は動きます。それが風というわけです。

春になると温かい空気と冷たい空気の領域が複雑に入り乱れつつ変化します。それに伴って、高気圧と低気圧が交互にあちこちに発生します。

春一番は、毎秒10m近い風速の風が吹くので、「風が暴れている」という感じがします。主に太平洋側で立春から春分の間に吹くその年初めての強い南風を、このような呼び名で呼びます。

この風が吹くと気温が上昇しますが、翌日に

なるとうって変わって寒くなってしまうのも特徴です。

同じ年の春に、春一番が観測された後にまた似たような南風が発生することがあります。クイズにも書いたように「春二番」「春三番」と呼びたくなりますね。これは、俗にそういう表現することもありませんが、基本的にはこの呼び名は使いません。

日本列島は長いので、沖縄や北海道などでは春一番に当たる風は吹きません。そのかわり、各地にはそれぞれの地域独特の風があり、様々な名前が付けられています。その数は二千以上とも言われます。

春に吹く風の名前には、梅の季節の梅風、涅槃絵のころに吹くから西方浄土から吹くとされて彼岸西風、雪解けのころに吹く雪解風、春分の後の清明風、南寄りの穏やかな油風などは、よく耳にします。

他にも、晴れ上がった春の日の光風、開花を知らせる花信風、貴の芽を吹かせる木の芽風、淡路や伊勢で春の南風をおぼせ、奈良の佐保風など、枚挙にいとまがありません。

公園の沈丁花が香ったから花の香風なんて、その日吹いた風に名前を付けても楽しいですね。



子供が見つけた不思議・ミニ解説

大昔、宇宙には水素やヘリウムのような軽い気体が、雲みたいに集まっているものがいくつか、漂っていました。今から46億年ほど昔、そういう雲の一つが自分の重みで縮んでいきました。中心部はぎゅっと詰まってきて密度が増し、温度も上がっていきました。おしくらまんじゅうすると暑くなるのと同じ感じですが。そのうち雲は回転をはじめました。お風呂のせんを抜くと真ん中に水が集まりやがてうずができませんが、それと同じと考えていいでしょう。そして、縮んで小さくなっていくと、その回転はどんどんどんどん速くなっていきました。フィギュアスケートの人が回るとき、ひろげた腕をぎゅっと縮めるとくるくる速くなる、あれと同じと考えてください。そうして、回転の速くなった雲の中心部は、もともと高温になり、ついには原子核の融合が始まって、自分で輝きはじめました。これを原始太陽とよびます。

ご卒園おめでとうございます

梅の花もほころび、早咲きの桜も開いてきました。もうすぐ幼稚園や保育園を卒園して小学校に進む皆様は、新しい生活の準備にお忙しいことと思います。どきどきわくわく、こらからもたくさんの不思議を見つけていってください。また、進級なさる皆様も一段と成長なさった視点で、改めて身の回りの不思議を探してみてください。楽しいお知らせをお待ちしております。ふしぎ新聞は無料でダウンロード可。少しばかり更新が遅れますがお許しを！紙面でお読みになりたい場合は、一年間(11回)の1100円を定額小為替か小額切手でお願ひしています(3部まで同封可)。

URL: science-with-mama.com

発行: ママとサイエンス 代表者: 田中幸・結城千代子 メインイラスト: たまたろ

問い合わせ先: 〒182-0012 東京都調布市深大寺東町6-16-23 結城

新連載 よみきかせ ふしぎストーリー

げんかんさきの あれ、なかに ⑦

木苺をとって、アケビを見つけて、カタツムリまで一緒に連れて帰れることになりましたが、肝心な玉ねぎはどうなったでしょう。園長先生とみうちちゃん、ちあきちゃんの三人は、森の中を、あちら、こちらと歩いてみましたが、玉ねぎはありませんでした。「どうやら、森に生えていたわけではないようです。」

「うん、不思議だねえ。おいも畑でもないし、園長先生のお花畑でもないし、八百屋さんでもないし、森でもないし、不思議だねえ。」ちあきちゃんは すっかり園長先生の口ぶりになっています。

首を傾げながら、三人が幼稚園に戻ってくる

と、
「あれ、ふえてる！！！！」
玉ねぎが増えています。

二十三個ではありません。もう一度数えなおすのは大変そうです。ごろごろ玉ねぎ、いったいどこからやってくるのでしょうか。

「あ、園長先生、おばあちゃん先生だ。」ちあきちゃんが叫びました。



冷え込んだ朝に窓が白く曇っていると、指でなぞって絵を描いた事はありませんか。エアコンで乾燥気味の室内では起こりにくいのですが、十分加湿がなされている部

曇ったガラス窓

屋や、雪の日のバスや電車の窓で出会う光景です。夏の冷たいジュースのコップの表のように、窓ガラスに水滴が

向こうから、スーパールのビニル袋をえつちらおつちら運んでくるおばあさんが、みうちちゃん達に気がついて にっこり笑いました。

「これはひめじ先生、お久しぶりです。お変わりありませんか。」園長先生が急いで近づいていって、重いスーパールの袋を持ってあげました。おばあちゃん先生は去年まで幼稚園の先生でした。みうちちゃん達がばら組さんのときに、おばあちゃん先生は毎日わくわくするお話を聞かせてくださいました。

でも、とてもお年をとったので、今年から幼稚園の先生をやめたのです。

「みうちちゃん、ちあきちゃん、元気そうですね。お姉さんになったわねえ。」

ひめじ先生はゆっくりりやがむと、駆け寄った二人を交互に抱きしめて下さいました。

「おや、ひめじせんせい、『犯人』はあなたでしたか。」突然、園長先生が言いました。

「犯人？」 ひめじ先生は不思議そうです。

みうちちゃんは園長先生が見ている、ひめじ先生の重そうなビニル袋をのぞいてみました。

「あ、玉ねぎ。」
「えっ、玉ねぎ？」ちあきちゃんもあわてて頭を寄せてきます。あらあら玉ねぎです。(つづく)

ついて真っ白になり、向こうが見えなくなっています。指で拭くと驚くほどたつぷりの水滴。「冬なのにガラスが汗をかいてる！」との子供の言葉に成る程。夏のジュ-

スでは「コップからしみ出しちゃった！」これまた成る程！一つ一つの体験、見て、触って、不思議に思っ「なんで？」と自分なりに考えて、今日も幼子は一步成長します。

今月の話題より

ちょっと変わった絵本の楽しみ方

絵の中の風の描写は様々です。もともと目に見えない空気の動き、でも、木々を揺らし、髪や布をはためかせ、木の葉を飛ばし…そんな風の描かれ方を探すのも面白いものです。「ぞうくんのおおかぜさんば」(福音館) 大風で模造君はご機嫌でお散歩。でもさすがの巨体も吹き飛ばされてゴロン。「かぜにふかれて」(同) 赤い犬のオビのところに風に吹かれているいろいろなものがやってきて…「ねえどっちが好き？」(同) 男の子とキツネ、いろいろなものを比べてねえ、どっちが好き？あなたはどうですか？「あひるさんのぼうし」(同) あひるさんのすてき水玉の帽子。風に飛ばされてどこまで行ってしまおうのでしょうか。「かぜのおまつり」(同) ふうこは山の中に住んでいます。



保育園からバスで帰ってくると、お家までが遠い遠い。帰り道に風たちがやってきます。今年最後の風祭りがあるのです。「きよだいなきよだいな」(同) んっぱらの真ん中にある巨大なピアノ、石鹸、泡だて器…扇風機からはもちろん風が。「はっぱをゆらすのどんなかぜ」(同) いろいろな風をだれが作る風かなあと、追いかけている絵本です。調子のいい文章を声に出すと楽しい。「しんぶんとだんす」(同) 新聞は風を受けると、実に楽しいお友達ですね。「はるかぜさんといっしょに」(こぐま社) こんちゃんは桜の下、春風さんとお話しします。春風さんはどこまで行くのでしょうか。こんちゃんが追いかけると次々皆がついてきますね。「はるかぜのたいこ」(金の星社) 葉祥明氏の優しい絵。ウサギは風邪をひいて、熊のお店で何か温くなるものはないかと聞きました。勧められたのはなんと太鼓。

クイズ解答 1) 俗にそう呼ぶこともあるが定義では一番だけ。「立春から春分の間最初に吹く強風」を「春一番」と定義しているから、期間が決まっているので、まれに吹かない年もある。2) ない。他の季節のはじめには特徴のある風は吹かないから。